

生育順調!「白神山うど」収穫期迎える 山うど部会、ニツ井営農センター

山うど部会（桜田和浩部会長）は、1月15日に規格や出荷形態を確認し、部会員の意思統一を図るため目揃会を開き、部会員や市場関係者ら約30名が参加しました。

桜田部会長は「昨秋の気温高で、莖葉の枯れ上りが遅く、掘り取り作業の遅延を心配したが、部会員の尽力で順調と聞いている。ハウス内の温度管理などを怠らず、1本でも多く出荷し目標販売額をクリアしよう」と話しました。

その後、指導員が重量や選別基準などを説明し、品質管理の徹底を呼びかけました。

一足早い春の香りを味わえる「白神山うど」の出荷が今最盛期を迎えています。



今年度の目標販売額 9054万円!



JAあきた白神のメダリスト達

全県JAから農業機械のプロフェッショナル集結 農業機械課

J A 農業機械パワーアップ運動成果発表大会が25日に秋田市で開催し、各メーカー表彰や農技委員会表彰など延べ51名と10 J A がそれぞれ表彰されました。

当組合では七尾光昭能代農機センター長、菊池一明ニツ井藤里農機センター長がメーカー優秀賞を受賞し、J A あきた白神農業機械課としても農技委員会表彰で敢闘賞を受賞するなど、今年度の農業機械課職員個々の奮闘が高く評価されました。

工藤農業機械課長は「今後一層組合員のニーズにあった農機具を提案し、2020五輪日本選手団よりも多くのメダリストを輩出出来るよう職員一丸となって頑張ります。」と抱負を語ってくれました。

元気ハツラツ!ミニディサービス開催 藤里支店、JA助け合い組織協議会

「支店を拠点とした協同活動」は、各支店が地域貢献活動等を通して地域とのふれあいの場、絆づくりを目的としております。その活動の一環として藤里支店では1月27日、中通地区の住民を対象としたミニディサービスを開きました。

中通地区の皆さんと支店職員も一緒となって、助け合い組織たんぼほ会の藤田ミヤ子会長の指導のもと、タオル体操やボールやうちわを使ったゲームで、会場は熱狂と笑いに包まれました。

山谷藤里支店長は「今後も、ミニディや様々なイベントを提案して、地域から愛される支店作りに努めます。」と話してくれました。



笑い声が響き渡ったミニディサービス



とことん 会って コミュニケーションをとるTAC職員

銀座三越であきた白神のファンを創造 経済部、TAC

生産者と生活者が互いを想い食と農を通じて共感する機会作りをコンセプトとする「みのりみのるプロジェクト」の一環で、1日に東京都の銀座三越で、みのりみのるマルシェ「あきた白神の実り」が開催されました。

経済部TACの3名が、「白神ねぎラー油」や「白神山うど」などを、来場者らに試食提供しながら、地域の魅力や生産者の想いを伝えました。

来場者らは「ねぎラー油はご飯に合わせておいしいわ」「世界自然遺産の白神山地には行ったことがあるわ」などと、J A 職員と会話を弾ませ持ち込んだ商品はほぼ完売となりました。